

# 水の旅、<sup>こぶしがたけ</sup>甲武信ヶ岳から<sup>わん</sup>東京湾へ173km

## 荒川を上・中・下流に分けてみよう

川は、流れている場所の違いにより、上流・中流・下流に分けられます。川が始まる山あいのあたりは上流、山を出てからの平地は中流、さらに海に続くところは下流になります。

この資料では、荒川が流れ始める甲武信ヶ岳から、奥秩父の険しい山地の山あいを流れて、平坦な秩父盆地までの区間を上流、川のけい斜がゆるやかになる寄居町から、入間川が合流した下流の秋ヶ瀬取水堰あたりまでの区間を中流、秋ヶ瀬取水堰あたりから、海に流れこむ河口までの区間を下流にわけて、荒川のことを紹介しています。



① 荒川源流点近くのようす (標高約2200m)

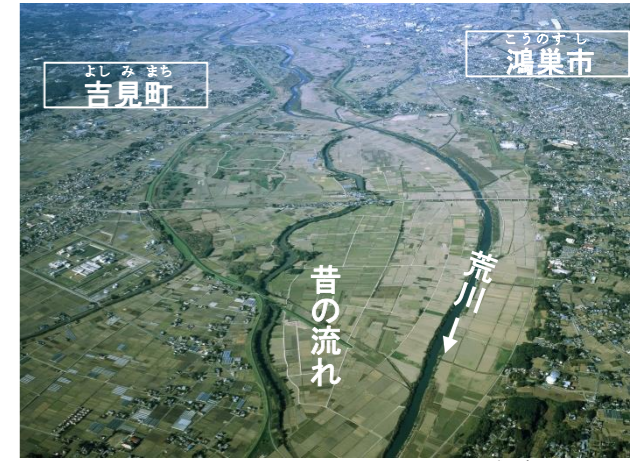
### 荒川の源流点

甲武信ヶ岳山頂近くのコケのむした岩のすき間からしみ出た水が、荒川の最初の一滴となり、川の流れとなります。川の流れの始まりを源流点といいます。

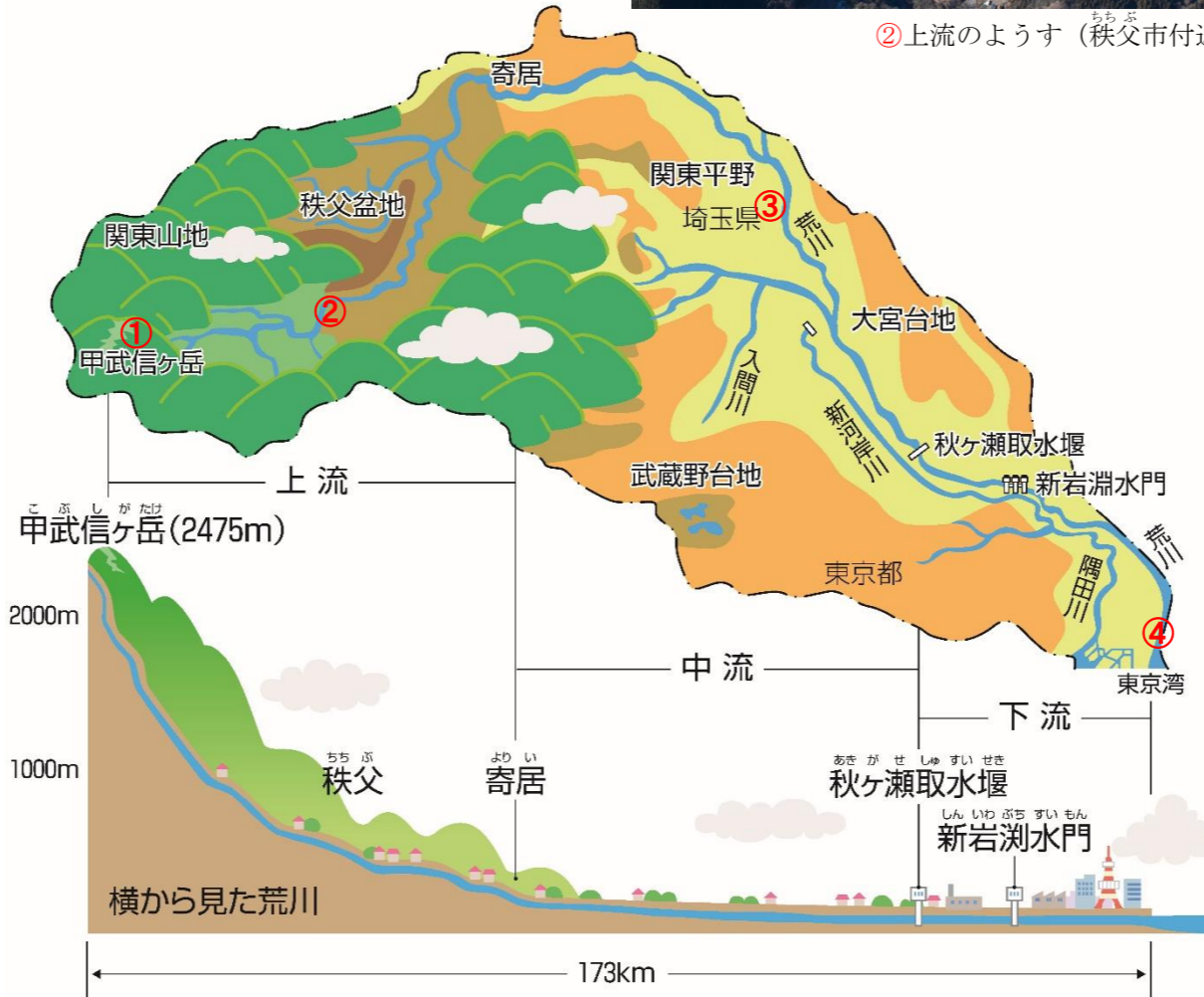
※川の長さ173kmは、源流点より少し下の「荒川起点」からの長さです。実際はもう数kmあります。



② 上流のようす (秩父市付近)

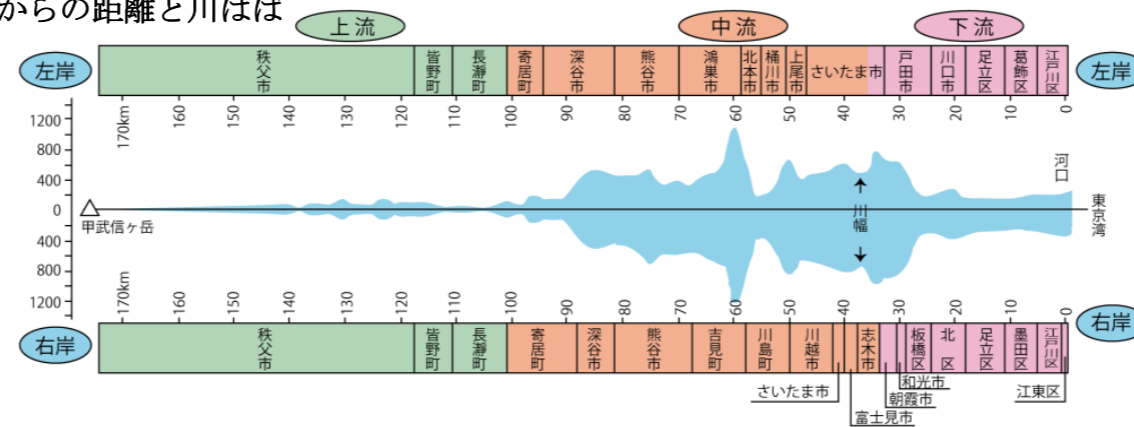


③ 中流のようす (鴻巣市付近)



④ 下流のようす (東京都)

### 河口からの距離と川はば



### 川の豆知識

#### 滝のような日本の川

日本の川は、細長い日本列島の中央を背骨のように連なる山地から流れ出し、せまい平野をぬけ、すぐに海へそそぎこみます。そのため、広大な大陸を流れる外国の川とくらべてみると、日本の川は滝のように急流だといえます。

#### ●おもな川のこう配

